尾漕遺跡周辺の地名・屋号の調査について

別府大学大学院生　　園田　大

1.はじめに

本調査は、1997年度に大分県日田市求来里川流域の調査を実施した地名・屋号の調査成果の報告である。この調査は、池辺地区県営圃場整備事業に伴う尾漕遺跡・森ノ元遺跡(以下、遺跡と略記)の発掘調査に平行して実施し、遺跡周辺部を中心に行った。調査対象範囲は地名・屋号が遺跡周辺部を中心に、水利は灌漑範囲の関係上、遺跡から北は諸留町内平島・片山・瀬戸の各地区と有田町、一方南は池辺町までとしている。

なお、調査方法は、圃場整備対象地域となった水田に、地名・屋号・水利を記録し、そして下記の成果を1/2,500地形図におとした。

2.調査の成果

1）調査成果の概要

聞き取り調査により明らかとなった地名・屋号は、下記の表のごとく地名38点、屋号41点の合計79点にのぼる。このうち、前者は田畑にその多くが付与されており、後者は遺跡周辺部の民家が対象となっている。後者からは、代表的なものとして、下屋敷（△35）、上屋敷（△36）、大座（△37）などの興味深い屋敷・座地名などを確認することができた。

一方の水利については、遺跡より北で諸留町内瀬戸に位置する日掛井堰とその他の堤により、南では池辺に位置する矢形井堰により灌漑されていることがわかった。

2）成果の内容

ここでは、第84図に地名を（●）で、屋号を（△）で番号を付し、その内容については表として地図に落とした位置と照合できるようにしている。

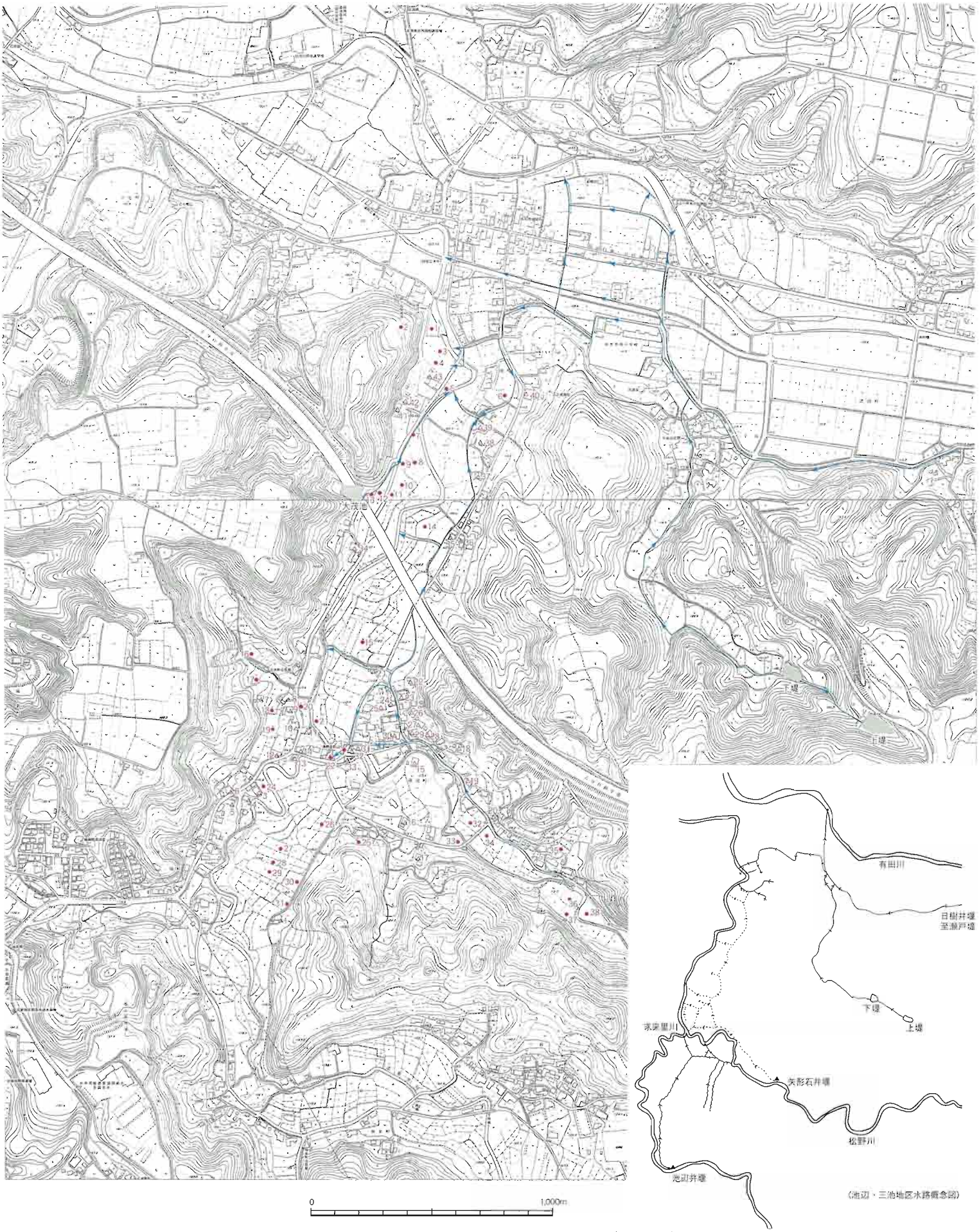
（1）地名

場　所	地　名	音　読	由　来	備　考
●1	下ン田	シモンタ	下ン田	
●2	寺ン田	テランウエ	緑芳寺の上	
●3	大田	オオタ	大きな田	元は一枚の田
●4	大田	オオタ	同上	同上
●5	キドロ	キドグチ	不明	
●6	下ンホウノ田	シモンホウノタ	下の田	
●7	三角田	サンカクダ	三角の形をした田	
●8	道添	ミチゾエ	道路沿いの田	
●9	七畝	ナナセ	面積七畝の田	
●10	大田	オオタ	大きな田	
●11	ソウロク	ソウロク	不明	
●12	新田	シンデン	不明	新しい田か
●13	丸田	マルタ	丸い形をした田	現在は丸くない
●14	下ン田	シモンタ	下の田	
●15	ウータン	ウータン	面積一町以上の田	大きな田とも呼ぶ
●16	ドンサコ	ドンサコ	不明	
●17	北ン裏	キタンウラ	屋号北の裏	
●18	前ン田	マエンタ	前の田	
●19	上ノ原	ウエノハラ	不明	
●20	向コウノ田	ムコウノタ	向かいの田	
●21	川端ノ田	カワバタノタ	池辺川沿いの田	
●22	トンボウズ	トンボウズ	昔、川に石があった	石の形が坊さんの頭をしていた
●23	宮田	ミヤタ	元は東神社所有の田	現在は公民館として利用
●24	前畑	マエバタケ	前の畑	
●25	茶園原	チャエンウラ	茶畑として利用	
●26	社田	シャデン	不明	東神社所有の田だったのか
●27	サコンネケ	サコンネケ	不明	

場　所	地　名	音　読	由　　来	備　　考
●28	サコン前	サコンマエ	不明	サコンネケの前か
●29	向田	ムコウノタ	向かいの田	
●30	段々原	ダンダンハラ	不明	
●31	ナゴノ下	ナゴノシタ	屋号ナガノネケの下の田	
●32	カサン田	カサンタ	傘の形をした田	
●33	小段	ショウダン	小さな田	
●34	クツガタ	クツガタ	不明	
●35	矢形石ノ田	ヤガタイシノタ	不明	
●36	井手元	イデモト	不明	矢形石井堰と関係あるのか
●37	前ン田	マエンタ	前の田	同上
●38	上ン田	ウエンタ	上の田	

（2）屋号

場　所	地　名	音　読	由　　来	備　　考
△1	ナガノネケ	ナガノネケ	不明	ナゴノネケとも呼ぶ
△2	屋根ノ下	ヤネンシタ	不明	
△3	マンダン上	マンダンウエ	屋号マンダの上	
△4	マンダ	マンダ	不明	
△5	上ン段	ウエンダン	不明	
△6	峠	トウゲ	不明	
△7	北ン上	キタンウエ	屋号北の上	
△8	北	キタ	不明	
△9	梅田	ウメダ	不明	
△10	新屋	シンヤ	不明	
△11	門先	モンサキ	不明	
△12	下ノ本家	シモンホンケ	不明	
△13	マンジュウヤ	マンジュウヤ	不明	話者によって場所が異なる
△14	川上	カワカミ	不明	池辺川沿いの上か
△15	四辻	ヨツジ	不明	ヨッツウジとも呼ぶ
△16	一ノ下	イチノシタ	不明	
△17	向道	ムコウミチ	向かいの道	
△18	上堂道	ウエンドウミチ	東神社に通じる道	
△19	清水元	シミズガモト	昔清水が湧いていた	
△20	前	マエ	不明	
△21	一本木	イッポンギ	不明	イップウギとも呼ぶ
△22	楢ノ木	ナラノキ	不明	性は楢木
△23	奥	オク	不明	
△24	木下	キノシタ	不明	
△25	中	ナカ	不明	
△26	新屋	シンヤ	不明	
△27	鍛冶屋	カジヤ	お金もちの家だったらしい	
△28	鍛冶屋ン下	カジヤンシタ	屋号鍛冶屋の下	
△29	鍛冶屋ン上	カジヤンウエ	屋号鍛冶屋の上	
△30	カイ曲	カイマワリ	不明	
△31	屋敷	ヤシキ	武士の屋敷跡だったらしい	近くに墓あり
△32	松葉	マツバ	不明	
△33	松葉屋	マツバヤ	不明	話者によって場所が異なる
△34	小堤下	コツ゛ツミシタ	堤の下	
△35	下屋敷	シモヤシキ	不明	屋号上屋敷と関係あるのか
△36	上屋敷	カミヤシキ	不明	
△37	大座	オオザ	仏事を担当する施設	同じ屋号が平島にもあり
△38	マガレノキ	マガレノキ	不明	
△39	シュウジ	シュウジ	不明	
△40	宮ノ下	ミヤノシタ	祇園社の下	
△41	ダイモ	ダイモ	不明	
△42	ダイモ下	ダイモシタ	不明	屋号ダイモの下か
△43	新宅	シンタク	不明	



第84図　地名・屋号・水利分布図（1/5,000）

（3）水利

遺跡周辺の水利調査について、北は諸留町内瀬戸地区に位置する日掛井堰と瀬戸・上・下の各堤により、その灌漑範囲は同町内瀬戸・片山・平島の各地区、有田町、池辺町の一部へと広範囲に及んでおり、有田・求来里の各河川沿いに位置する水田を潤している。一方、各堤の現状は、瀬戸地区の位置する瀬戸堤が水利としての機能を有しているのに対し、平島地区に位置する上・下堤は木材加工団地の造成により消滅しているが、本来は平島集落南側の細長い谷間の水田部を潤していたのであろう。南は、池辺町に位置する矢形石井堰により、求来里川沿いと池辺・三池の各集落の間に位置する水田を潤している。

3.調査のまとめ

以上のような調査結果からその成果をまとめる。今回調査した池辺・三池の各地区一帯には、中世以前の状況を伺い知ることのできる文献史料等は残っていなかったものの、しかしながら注目すべき屋号として大座（△37）がある。この大座については聞き取り調査によると、村の仏事を担当する布教施設で、布教するための座（特権）を持っていた事がわかった。近世期には久留島・森藩の藩主がここに立ち寄った際にも接待を催したことが伝えられている。

一方、考古学の発掘成果を借用すると、大座周辺からは注目すべき遺構と遺物を確認することができている。まず、遺構としては、溝で囲まれた屋敷地と人骨の出土した2基の木棺墓、さらには五輪塔の宝珠部分が出土した土坑などが、大座の屋号を持つ民家のすぐ両側で確認されている。さらに屋敷地に建てられた建物柱穴の中からは、高さ約5cmの青銅製の懸仏が出土している。上述のごとく、大座が仏事に関する布教施設であるならば、考古学成果とあわせて大座周辺には中世期における宗教関連の施設があり、現在まで屋号を通じて伝わったのであろう。

最後に、調査によって確認された地名・屋号であるが、残念ながら由来の大半以上は不明であった。これは、人々の言い伝えによる記憶が、行政地名が進行することにより薄れていったためと考えられるが、さらにこの地区一帯で進められてきた道路建設、木材加工団地造成などの大規模開発により、この現象は加速されていくものとみられる。

（付記）

本調査を実施するにあたっては、池辺・三池・平島各地区の在住の方々と水利組合関係者の皆様方にはご迷惑にもかかわらず、快くご協力を頂くことができました。また、別府大学飯沼賢司教授、九州大学服部英雄教授には、本調査を行うにあたってご指導賜りました。心よりお礼を申し上げます。